



第17回関節ファシリテーション学会学術大会 愛媛大会

テーマ：運動器再教育～生物学的視点から～

会期：平成28年9月18日（日）・19日（月）

会場：松山市総合コミュニティセンター



・・・台風接近に伴いあいにくの悪天候の中でしたが、初の四国開催にて今年も学術大会が無事行われました。



全国各地から総勢 400 名以上の参加者が集いました！！

<学会 1 日目>

～開会の辞～



～大会長挨拶～



今年は開会宣言一言に留まらず、この学会にかける想いも込めて田村副大会長からの言葉で学会が始まりました。開催に立候補をしてからあっという間の 2 年間でした(;^ω^)

～理事長挨拶～



～基調講演～



講演の最後には力強いメッセージが送られました！

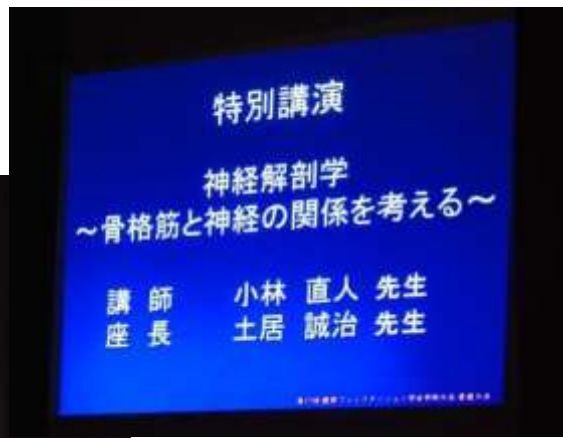
『元始、**Physical Therapy** は医術の中心であった。

(中略) 私共は今こそ **Physical Therapy** 本来の姿を取り戻さねばならぬ。』

～一般演題 I～



～特別講演～



小林先生には神経解剖学の理路整然としているところとそうでないところを、分かりやすくユーモアを交えてご講演頂きました。

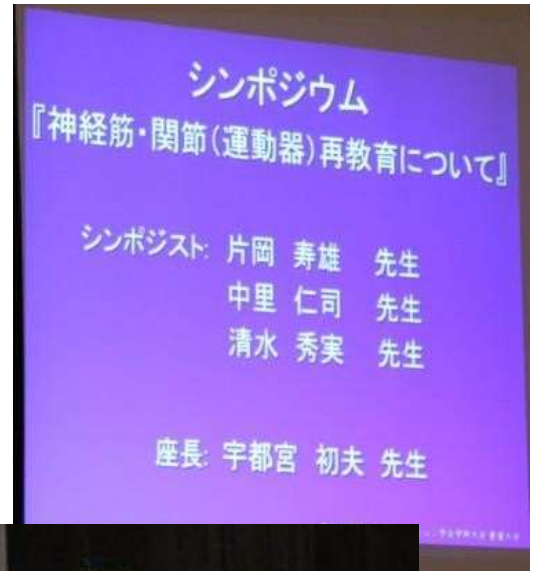
1日目・・・理事長の熱いメッセージが込められた基調講演に始まり、4題の演題発表、小林先生による神経解剖学の奥深さや面白さが伝わる特別講演まで、非常に密な初日でした・・・。

～一般演題Ⅱ～



一般演題では前日の I と合わせて 8 題共に $q.i.s.$ もしくは $q.d.s.$ に関する内容の発表でした。
SJF の中でも奥深い技術であり、検証の余地がまだまだあることを感じさせられました。

～シンポジウム～



片岡先生には関節生物学的アプローチについて、中里先生に筋生物学的アプローチについて、最後に神経生物学的アプローチについて清水先生にご講義頂きました。各 organ からの生物学的な見方と治療法についてのこの講演は、世界に類をみない圧巻な内容でした。

～大会長講演～



大会長である徳本支部長には「愛媛大会から PT への提言」と題して、四国支部設立前からの歩みや今後の展望についてご講演頂きました。

～次期大会長挨拶～



2017年東京大会は「世界にはばたけ SJF」にテーマが決まりました。日本を越えて壮大なスケールとなり、関東支部長石田先生から英語で冒頭の挨拶を賜りました。

～SJF 賞授与～



SJF 賞には四国支部設立以前から大変お世話になっている岡山支部の築山先生と、一昨年刊行されました 4DCT 本の著者であり今回シンポジストも務めて頂きました愛知支部の片岡先生が授与されました。四国支部としてもお二人の受賞は非常に感慨深かったですね☆

～閉会の辞～

<終わ

今回の
学会の

来年は
すね。



りに・・・>

至らぬ点多々ありましたが、無事盛大に学 術大会ができましたこと、心より皆様に厚く御 礼を申し上げます。学術大会の経験を生かして、支部会員 一同今後も SJF 発展に尽力し、研鑽を 重ねていきたいと思ひます。

日本の中心から世界に発信するよう な学会になりそうでは是非東京でお会いし ましょう！